1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800331		
法人名	社会福祉法人菊水会		
事業所名	グループホームうぐいすの里		
所在地	山口県下関市菊川町大字下岡枝1062番地		
自己評価作成日	令和3年6月21日	評価結果市町受理日	令和3年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は木屋川の河川公園のすぐ傍にあり、四季折々の花や景色が楽しめる。職員は入居者様お一人おひとりの思いを大切にすため、会話中の言葉の意味を理解することを心掛けて話を聞くようにしている。時間の許す限り入居者様と過ごしレクリエーションや散歩が楽しみになるように努め、対応は職員がユニバーサルデザインによる技法を学び、ゆっくりと行うことを心掛けている。週5日の夕食は仕出し弁当ですが、その他は、食事を3食作り、食器洗いにも参加していただいている。毎月1回甘酒を一緒に作り召し上がっていただいている。入居されてからも、今まで自宅ですて来られたことに近いことが出来たり、続けられることで落ち着いた生活に繋がるように支援している。令和2年2月からは家族会と地域や法人との行事は、コロナ禍ということもありほとんどできていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の意見を聞く機会を多く設けておられ、食事制限のある利用者の食事提供時の工夫や希望される家族にはラインで写真や動画を送っておられる他、月1回利用者が塗った絵手紙と写真にコメントを添えて送られて、家族の安心と楽しみを得ておられるなど、家族からの意見や要望を運営に反映させるとともに利用者を支える介護にとり組んでおられます。外出支援が制限されるなかでも、河川公園の桜見物や畑の柿の収穫、玄関先での周囲の山や畑を眺めながらの外気浴やお茶、プランターの花の鑑賞、施設内の桜を眺めながらの手作り弁当、毎月の甘酒作り、毎月の行事やレクリエーションを工夫されて、気分転換や四季の変化を感じる工夫をしておられます。事業所独自で週2回定期的に6項目の緊急時対応についてくりかえし訓練を行われ、事故発生時に備えておられます。職員間で話し合った毎月の月目標によって、事業所の理念を具体化され、共有されて、実践につなげるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり又深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者、職員で法人理念をもとに目標を作り、ホーム内に掲示、日誌にも書き込みいつも目に触れるようにしている。毎日朝礼時に唱和している。職員が日々共有し支援に繋げている。</p>	<p>法人の理念をもとに、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。毎日の朝礼の場で、スタッフ会議で決めた毎月の月目標とともに唱和し、共有している。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>昨年2月より感染症予防のため、地域への買い物やボランティアの受け入れをしていないが、近くのスーパーの移動販売車を利用している。入居者様が食品を選ばれることもあった。</p>	<p>法人として自治会に加入している。コロナ禍で地域行事がほぼ中止となり、例年のような地域との付き合いが制限されるなか、職員は法人の地域交流委員会に参加して施設周辺のゴミ拾いをしている他、週1回の移動販売車の人とあいさつを交わしたり、地域の人からの差し入れ(野菜、果物、もち米等)があるなど、地域の一員として日常的に交流している。高校生や福祉専門学校実習生の受け入れをしている。事業所は、災害時の地域の福祉避難場所として表明している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>昨年2月までは法人で「認知症カフェまんてん」を2か月に1回開催し、地域の方、地域包括支援センターの職員、キャラバンメイト、ボランティア、職員の協力をいただき、その月ごとの催し物・認知症についてのミニ講話で理解を深めていたが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止している。その他には人材育成の貢献として、令和2年8月9月で高校生や福祉専門学校の実習生を受け入れた。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員各々に説明し記入してもらった。評価項目を読み理解することで、自分のケアの振り返りや地域とのつながりなど再確認することができた。前回の外部評価の指摘事項・改善すべき点はスタッフ会議等で話し合い取り組んできた。	管理者は、職員に評価の意義を説明して、評価のための書類を全職員に配布し、職員が記入したものを管理者がユニットリーダーと話し合っまとめている。職員は、自己評価を日頃のケアの振り返りの機会と捉えている。前回の評価結果をうけて目標達成計画を作成し、週2回のマニュアルに沿っての応急手当や初期対応の実践訓練を継続して実施している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の様子や月行事、ヒヤリ事故報告、法人の行事や感染症対策についての報告をしている。昨年2月以降はコロナウイルス感染拡大防止のため、書面での開催とし情報交換をしている。	会議は年6回書面での開催としている。利用者について、ヒヤリ事故の報告、行事の報告などについて、資料とともに、「質疑及び意見記入用紙」を同封して送付している。メンバーから、季節行事の取り組みへの感謝や職員への慰労の言葉とともに、地域行事の情報や他施設の面会方法の情報などがあり、そこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センターの職員から運営推進会議の中で他施設の感染予防の取り組みなどの情報を頂いた。また、面会方法についての助言もあった。	市担当者とは、電話、FAX、メール運営推進会議資料送付時に相談をしている他、法人として市と福祉避難所の協定を結んでいるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話、運営推進会議資料送付時に情報交換をして連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のグローアップ勉強会に職員も委員として参加し持ち帰った資料は回覧している。セーフティケア会議・スタッフ会議でも身体拘束(特に、鍵や言葉使い)について話し合いをし資料回覧している。GH勉強会でも接遇の中で具体的理解を深めた。入居者様に対するケアの統一を目指している。	月1回「身体拘束適正化委員会」を開催している。職員は、法人研修や内部研修で学び身体拘束について正しく理解して、拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者に気付いた時は、職員と一緒に玄関先でお茶を飲んだり、畑の柿の収穫や花を摘んで来たり、周辺を散歩して気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、気になるところは、管理者が指導したりスタッフ会議でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議では、ケアプランのモニタリングをし、出来ている事出来なくなったことなどを話し合い入居者様のケアプランを見直し不適切な対応をしないように話し合っている。法人内の勉強会を通して職員の意識向上に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新任職員研修の中で地域包括支援センターの職員により制度の理解を深めるため勉強会がある。現在は利用されている方はいないが今後必要に応じて対応していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書・その他必要書類などを丁寧に説明している。また、現在や将来的な不安・疑問点もしっかり耳を傾け一緒に考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族に満足度調査アンケートを行い意見を頂き運営や改善に反映させている。家族会は令和2年4月から新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止しているが、ご家族の代表者に運営推進会議に参加頂きその中でご家族の思いや意見が聞いている。	契約時に苦情や相談の受付体制、第三者委員、処理手続きについて、利用者や家族に説明している。面会時、電話、年1回の満足度調査アンケート、運営推進会議資料送付時、外部評価自己評価結果送付時、事業所より送付時、ケアプラン説明時、受診結果報告時に、家族からの意見や要望を聞いている。家族からの糖尿病の利用者のご飯量についての相談への適切な対応や、希望する家族には、ラインで写真や動画を送っている他、月1回利用者が塗った時節の絵手紙と写真にコメントを添えて送ったところ、様子がよくわかると家族の安心と楽しみを得ていることが分かり、これを続けて行っているなど、出た意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	能力開発カードを活用し職員は半年毎に自己評価をしている。上司との面談があり、自分の思いや、業務上の意見を聞いてもらい提案もできる。	月1回のスタッフ会議や全職員会議、セーフティケア会議で意見や提案を聞いている他、日頃の業務のなかでも聞く機会を持っている。職員は、年3回の個人面談時に意見を述べている。担当委員(セーフティケア、食事、衛生、環境、レクリエーション、記録物の整理など)をきめ、意見や提案が出やすいようにしている。利用者の居室での自作品を飾る場所を職員間で話し合い、手づくりのコーナーを設けている他、記入しやすく共有できる「生活記録表」を使っており、常にわかりやすい記録について話し合っているなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年2月からは外部研修は、オンラインで参加している。資格取得にも勤務の調整など行い介護福祉士合格者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員は、法人内で新人職員研修を受ける。また職員は交代で法人で行われているグローアップ勉強会に参加し勉強する機会がある。また、資格取得については能力開発カードの中で自己啓発として目標にあげてもらい各自勉強に励んでいる。令和2年はケアマネ資格、令和3年は介護福祉士資格を取得した職員がいる。又介護福祉士の資格取得の為のスクーリングに参加できるように勤務の調整をしている。</p>	<p>外部研修は、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。GH協会主催のコロナについての研修をオンラインで受講している。法人研修は、月1回グローアップ勉強会に参加し、看取り介護、感染症と食中毒、高齢者虐待と身体拘束廃止、介護技術、認知症ケア、褥瘡予防、食事、障がい者、リスクマネジメント、個人情報保護、災害時の対応などのテーマについて行っている。月1回の全職員会議において、法人の安全衛生委員会の勉強会を実施しており、ストレスチェックとセルフケア、腰痛予防、法令遵守、新型コロナウイルス感染症予防、自殺予防、熱中症予防、防災訓練(地震)について、実施している。内部研修は、年6回グループホーム勉強会として、ユニット毎に実施し、職員が講師になって、糖尿病、急変時の対応(誤嚥、けが)、接遇、認知症について、など実施している。さらに週2回定期的に、気道異物除去など6項目の緊急時対応についてくりかえし訓練を行っている。新人研修は、法人の新人研修受講後、日々の業務のなかで先輩職員が指導している。介護支援専門員や介護福祉士などの資格取得の支援をしている。</p>	
15		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会のリモート研修に参加し、自施設の感染予防対策について意見交換を行った。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される前に状態や思いを知る為に入居者様やご家族に会い話を聴いている。不安な事や要望を聴き安心して入居し生活して頂けるよう関係づくりに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との対話の時間を十分に取、困っている事、不安な事、要望等を聴きながら事業所として入居者様に出来る事、また出来ない事を伝えるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族としっかり話し合い、必要としている支援が提供できるように対応に努めてる。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	甘酒作りや干し柿作り、豆の炊き方など知恵をいただき、職員と一緒に作っている。人生の先輩として活躍の場を提供し教えをもらいながら一緒に行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や日帰り旅行等、一緒に過ごす時間を設けていたが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため開催できていない。面会の機会や広報誌、毎月送付している絵手紙を大切な交流の場と認識し職員はご家族に日頃の様子を伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年2月からは、面会制限されている。地域行事の中止や、ボランティア団体の方も自粛されており交流ができていない。	面会の制限があるなかでも、家族との窓越しの面会、希望する家族にはラインでの動画や写真を送る他、電話や手紙のやり取りの支援をしているなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	菊川図書館で紙芝居を借り、入居者様が楽しめるレクリエーションを考えたり、個別でも出来る脳トレの種類を増やし勧めていた。また、席の配置への配慮や入居者様同士がトラブルになる前に間に入るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られた方にお会いする機会があれば、入居者様やご家族に声掛けし、馴染みの関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の思いの把握に努め、ご家族の要望とスタッフ会議で職員の意見を聞きケアプランを作成している。また、日々の言葉や行動を個人記録に記入し、スタッフ間で共有し入居者様の希望に添えるよう努めている。	入居時に、入居者情報シートやセンター方式のシートを活用してアセスメントをしている。日々の関わりの中での利用者のことばや行動、表情、職員の対応などを「生活記録表」に記入している他、ユマニチュード技法を用いて、利用者に寄り添い、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合はスタッフ会議で職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居者様の話を聴き、センター方式に記入している。施設におられた方は施設からの情報提供書を参考にし、情報をスタッフ間で共有し、把握し介護に活かしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、健康記録表に記入し、日々の様子や状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度スタッフ会議では、モニタリングを行っている。ケアカンファレンスは介護保険証の期限に合わせ6か月に1回行っている。家族会でケアプランの説明をご家族、入居者様にし面談後には、ご家族に希望を聞いた上で、今現在の状態に応じた計画を作成するように努めている。昨年2月以降はケアプランを送付したり、面談できるときはご家族に出向いていただき説明している。	計画作成担当者と利用者担当職員が中心となって、月1回カンファレンスを開催している。本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして、スタッフ会議で話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6か月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状況や家族の意向や要望の変化に応じて、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、言葉、好きな事嫌いな事、嬉しいこと等、ケアについての気付きは生活記録表に記入し、職員間で共有しケアに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、定期受診は3カ月に1回ですが、必要に応じて受診の支援を行っている。歯科については今まで通り訪問診察をしていただいている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流はなかったが、併設の特養と餅つきをしたり、野菜を施設で作ってくれている職員が季節の野菜を届けてくれたり、毎月移動美容室を感染症予防に留意しながら利用した。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医にされておられる方は職員が受診支援している。また、入居される前からのかかりつけ医への受診は、ご家族の協力を得て受診しているが、必要に応じて職員も同行し様子を話したり介助している。受診の結果に関する情報を共有し、次に受診される時も、GHでの様子を伝え継続的に適切な医療を受けられるようにしている。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回の訪問診療と、3か月に1回の定期受診の支援をしている。以前からの医療機関をかかりつけ医としている利用者は、家族の協力を得ての受診としているが、必要に応じて職員が同行している。看護師がバイタルチェックや日々の健康管理を行っている。他科受診は家族の協力を得ている。受診結果は、家族へは電話や面会時に伝え、職員間では「連絡帳」やセンター方式の「私の療養シート」に記入して伝えている。休日や夜間、緊急時は協力医療機関と連携し適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護職が常勤しており、日々の健康管理を行っている。介護職は入居者様の変化を見落とさないよう検温や入浴時特に注意し、看護職へ報告を行い適切な受診や医療を受けられるように支援している。療養シート、健康チェック表を使用して記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時は、サマリーを作成し情報を伝え、病院関係者と情報交換をしている。主治医やご家族と相談し、早期退院が出来るように努めている。入院時は3か月以内に戻られる方については居室を確保している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針の説明、急変時・緊急時の意向を入居時に、入居者様やご家族に確認して記録に残している。事業所で作る事を十分に説明し、嘱託医と職員が連携して取り組み、安心して介護を受けて頂けるようにしている。	契約時に、「重度化に関する指針」と「看取りに関する指針」に沿って、事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重症化した場合は、早い段階から家族と職員が相談し、主治医が家族に説明し、医療機関や施設への移設を含めて話し合っ方針を決めて共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書をその都度作成し、再発防止策をスタッフ内で話し合っている。また、週2回緊急時の対応訓練を行っている。	事例が発生した場合、その日の職員が話し合い「ヒヤリ・ドキッ報告書」に内容、原因、対応、防止策を記入し、朝の申し送りで報告して職員間で共有している。法人のセーフティケア委員会に報告している。そこでの助言をうけて、月1回のスタッフ会議で再検討して、一人ひとりの事故防止にとり組んでいる。法人研修で、感染症予防、食中毒予防、リスクマネジメントについて実施している他、内部研修でも、熱中症予防、急変時の対応(誤嚥、けが)について実践訓練をしている。さらに週2回定期的に、気道異物除去など6項目の緊急時対応についてくりかえし訓練を行っている。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で実施される避難訓練に参加している。グループホームでは、週2回緊急時の対応訓練を行っている。勉強会でも入居者様と一緒に避難訓練をおこなった。運営推進会議でも災害時の連携の話をしている。	法人施設合同で年1回、豪雨災害を想定した訓練を利用者も参加して実施している他、年2回事業所独自に昼間想定火災通報、避難、誘導、避難経路確認の訓練と、地震を想定した防災訓練を、利用者も参加して行っている。地域消防団が、運営推進会議のメンバーになっており、緊急時連絡網に加わっている。市と福祉避難所としての協定を結び、災害時の地域避難場所として、表明している他、福祉生活SOS相談所として社協の認定を受けているなど、地域との協力関係を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での接遇の勉強会に参加し言葉かけや対応について尊厳を大切にしている。グループホーム内でも接遇について勉強会を行い、不適切な言葉かけや対応をしないよう心掛けている。月の目標にも挙げて意識するようにしている。	職員は、法人研修で個人情報保護について、内部研修で接遇について学んでいる他、月目標にも言葉使いや、声のトーンに気を付けることなどを掲げて、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。記録物など、個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時の飲み物については、メニュー表を作り好きな物を選んで頂き飲まれている。食事、好き嫌いについて把握したり、糖尿病の方の食事管理など入居者様やご家族に聞き提供している。洋服を選ぶ際に数枚並べ、入居者様に選んで頂く場面を作っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様によっては、居室で趣味(読書など)を楽しまれたり、横になりたい時間帯もある。レクリエーションや散歩は声掛けを入居者様の意思を確認しながら参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服、入浴後のパジャマ等、入居者様が着たい物を選んで頂いている。昨年2月から美容院は、苑に来る移動美容室を利用されている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた旬の野菜の皮むきをしながら、「どう調理して食べようか?」「豆ごはんがおいしいよね。」など好みを聞いている。他には食器洗い、テーブル拭き、洗濯干し・たたみに参加して頂いている。	週5日の夕食は仕出し弁当を利用し、その他の食事は事業所の畑でとれた旬の野菜や、地域や家族、職員からの差し入れの食材を使って事業所で調理している。管理栄養士が作成した献立でユニット毎に調理し、利用者は職員と一緒に、野菜を切る、皮むき、台ふき、食器洗いなど、できることをしている。糖尿病で食事制限の利用者に対して、ごはん量の満足感を持ってもらうために一回り小さい茶わんに替え、一人がけテーブルにするなど、利用者の気持ちに沿った対応をしている。季節の行事食(おせち、恵方巻、ちらし寿司、筍ごはん、土用のうなぎちらし、節分の豆まき、クリスマスケーキ作り、忘年会の鍋など)やおやつづくり(どら焼き、ホットケーキ、鶏卵焼き、ワッフル、蒸しパンなど)、干し柿作り、赤しそジュース作り、毎月の甘酒作り、花見での手作り弁当、玄関先でのお茶など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録をしている。刻み食や、むせる方にはとろみを付ける等その方にあった食事作りをしている。自力摂取が困難な方には食事介助をしている。献立は、管理栄養士が作成している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行っている。夜間は毎日入れ歯を預かり、洗浄液に浸けて洗浄している。歯ブラシは豚毛などその方にあった物を使用している。入れ歯をのけたくない方には短時間の消毒をお願いし必ず入れ歯をお返すように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄等の記録表により、入居者様に合わせたトイレの声かけや誘導を行っている。尿とりパッドも入居者様に合わせて選んで注文している。必要な入居者様には、夜間ポータブルトイレや尿瓶を居室に設置し介助している。	生活記録表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、毎朝牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトやバナナも摂って頂いている。牛乳が飲めない方には、野菜ジュースやヤクルトを準備している。排便状況を生活記録表に記入し、水分を勧める等調節をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日13時半から18時の間で希望の時間に入浴出来るようにしている。体調等によってはシャワー浴や清拭、足浴等に心掛けている。曜日を定め、週に3回は必ず入浴出来るようにしている。うめ館は、午前中入浴ができる日は実施している。	入浴は毎日、13時30分から18時まで可能で、利用者の希望に添っていつでも入浴できる。好みの湯加減で好みの石けんや入浴剤を使ったり、柚子湯にして季節を感じて、ゆったりと入浴を楽しめるようにしている。体調に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、部分浴の支援をしている。入浴したくない人には、時間をずらしたり言葉かけの工夫、職員を交替するなどして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後すぐに休まれる入居者様も、テレビを見て過ごされる入居者様もおられる。眠れない時には飲み物を勧めたりお話をして落ち着いた気分になれるよう支援している。居室の室温や布団の調節も行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表をファイルしており、すぐに見れるようにしている。症状に変化があり、臨時薬が出る時や薬の変更があった時は、療養シートや連絡帳、3日間は日誌に貼付し伝達の徹底に努め朝礼で報告し誤薬に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人のクラブ活動のカラオケ教室、法話、押し花、療育音楽、ハーモニカ演奏は昨年2月からコロナの感染状況を見ながら開いていたが現在は中止している。 その為GHでは体操やレクリエーションに力を入れた。体操はラジオ体操、上肢・下肢筋力維持体操、ストレッチ、廊下歩き、DVD体操等行った。レクリエーションは、言葉遊び、かるた、トランプ、牛乳パック積み、折り紙で作品作り、歌を唄う、紙芝居などが楽しみになるように計画した。個別の取り組みでは、脳トレ、暗算計算・そろばんを使う計算プリント、習字、ぬり絵等勧めた。GHで生け花クラブも行った。家事への参加もあり、食器洗い、テーブルふき、洗濯干し・たたみを勧めた。毎月甘酒作り、季節になれば紫蘇ジュース作りや干し柿作り、柿もぎも一緒にした。プランターに季節の花を植え入居者様が水やりをされる等、習慣や希望を踏まえて「してみたいな」と思う事が出来るよう、コロナ禍を皆で考えて支援を行った。	節分の豆まき、ひな祭り、七夕飾り作り、敬老会での合奏と手品、クリスマス会、忘年会、しめ縄作り、お餅作り、正月の書初めと福笑い、凧作り、こどもの日のカブト作りなどの季節の行事、誕生日会、ラジオ体操、上下肢筋力維持体操、ストレッチ、廊下歩き、DVD体操、風船バレー、輪投げ、玉入れ、魚釣りゲーム、黒ひげゲーム、トランプ、絵合わせ、ピンポン玉転がし、生け花教室、花の苗植えと水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、裁縫、モップがけ、布団カバーかけ、柿もぎ、干し柿づくり、しそジュース作り、毎月の甘酒作りなど、利用者一人ひとりが活躍できる場を多く作り、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの周囲には河川公園があり四季を通して散歩に出かけている。昨年秋にはコスモス見物、敬老会への参加など地域に出掛けられた。毎月の行事予定は入居者様の見える所に掲示し「今日は〇〇があるね。」等の会話もある。毎年行っていた日帰り旅行は、昨年からコロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	コロナ禍のため、例年のように地域に出かけることはできなかったが、河川公園の桜見物や畑の柿の収穫、ウッドデッキでの周囲の山や畑を眺めながら日向ぼっこやお茶をのんだり、玄関先のプランターの花を鑑賞して、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預り金で、必要なものは購入している。ご自分でお金を持っていることで安心される入居者様もおられるが、混乱される事もある。ご家族と相談しながら所持して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご姉妹と手紙のやり取りをされている方もいる。ご家族に電話をかけたいと言われる時は、話ができるよう電話をつないでいる。コロナウイルス感染拡大防止のために面会制限が始まってからは、入居者様が色塗りをされた絵ハガキにメッセージを添えて毎月送っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に行事の写真や押し花、季節の作品を展示し楽しんで頂けるようにしている。玄関や居間、居室には花を飾る等して季節感を感じ取れるようにしている。	廊下やリビングの壁面に、行事の写真や利用者と職員と一緒に作った時節の作品を飾っている。玄関やリビングには季節の花が生けてあり、窓から栽培している畑の野菜が見えて、季節を感じることができる。廊下の長椅子に座布団を置き、ゆったり座ってくつろぐことができる場所となっている。温度、湿度、換気、音などに配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファの3人掛け・1人掛け、肘付座椅子、決まった食席、ホーム内の取り付けの椅子、和室の掘りごたつ等、好きな場所で過ごせるようにしている。玄関にベンチや椅子を用意し景色を眺めたり、気分転換出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置いている物は、なるべくご自宅で使用されていたものを活かし、一人一人が居心地良く過ごせるように作っている。今までの習慣等配慮した家具の配置にしている。ご家族が季節ごとのタペストリーを飾り季節を感じて頂く工夫もされている。レクリエーションでできた作品はなるべく居室に飾るようにしている。	ベッド、寝具、タンス、ソファ、小テーブル、椅子、テレビ、ラジオ、小引き出し、衣装かけスタンド、サイドボード、鏡、過去帳、時計、ランタンなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族と一緒に写った写真やブリザードフラワー、自作の押し花作品、カレンダー、色紙、タペストリー、などを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。トイレは表示をし、居室も名前を表示している方もいる。自立した生活が送れるように整理整頓や、動線を考えた家具の配置を工夫し安全面にも気を付けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 社会福祉法人菊水会グループホームうぐいすの里

作成日: 令和 3 年 12 月 8 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続	職員自ら、リスク管理ができること。急変時には、訓練した対応が出来るよう、実践力を身につける。	【項目】 1. リスクマネジメントの勉強会の実施 2. 緊急時初期対応の実践訓練 3. 応急手当の実践訓練 【方法】 1について、GH勉強会で学ぶ。法人勉強会に参加する。 ・実施日と参加職員を記録する。 ・グループホーム勉強会では、参加の少ない職員を対象に訓練を主に企画するように配慮する。	2021.12～ 2023.10 【項目】 1について R3.11月と12月に勉強会を実施した。参加職員の記録もしている。 【方法】 1について GH勉強会で1ユニットずつ実施した。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。